

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201827
法人名	医療法人 種榮会
事業所名	グループホーム ほほえみ
所在地	〒859-3232 佐世保市萩坂町1750-1 (電話) 0956-59-2242

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年10月15日	評価確定日	平成20年12月1日

【情報提供票より】(平成 20 年 9 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7,95 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての 階 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費・1,300円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
1日当たり		1,000 円		

(4) 利用者の概要(9 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あかがき内科循環器科・中央病院・宮原病院・長崎神経医療センター・渡辺齒科
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

佐世保市郊外で東彼杵郡に近い地域に設立され、地域住民のかかりつけ病院としても存在感がある医療法人が母体のホームである。入居者の体力低下を防止するため八ビリに力を注がれており、医療面では24時間体制で緊急対応でき、家族や本人は安心して日々を過ごされている。職員は「ほほえみ」という理念を意識し「家族としての関わりを持つ」を介護の基盤として意識されている。地域住民に向けての「介護教室」は好評で、継続の希望が住民から出されている。運営推進会議から「話し相手ボランティア」の取り組みに前向きな姿勢が見受けられ、介護予防の観点からも今後の活躍に期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善項目1地域との付き合い:地区の夏祭り、町民運動会は参加できる入居者と共に参加し、公民館祭りには、入居者が製作した貼り絵や習字を出品されている。地区小中学校高学年の体験学習を受け入れている。改善項目2 事業所の力を活かした地域貢献:ほほえみ新聞を法人内のデイケア、デイサービスに掲示してもらい、地区住民を対象に「介護教室」の開催など積極的取り組みが実行されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組まれ、職員の介護の振り返りなどサービスの質の向上に努められている。外部評価で指摘されたことは改善計画シートを基に取り組まれている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。自己評価・外部評価の報告や今年の行事予定、入居者の生活状況報告などを議題に挙げられている。入居者の高齢化に伴い外出困難な傾向がある。「どうすれば地域の方にホームへ来てもらえるか!」を参加者と共に意見交換をし、婦人会のボランティア活動としてホームに来られる可能性を協議され相互のニーズに応える形で結論に至っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>運営推進会議に参加できない家族の要望を汲み取る方法が家族面会時であり、職員が不安なことや要望がないか尋ねても不安や要望の声は少ない。しかし、時として疑問点や不満を言われれば真摯に受け止め、解決のプロセスや改善への姿勢を家族に伝えられている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議で地域住民との交流の機会を増やされている。入居者が参加できそうなプログラムを町民運動会に取り入れてもらうなど積極的な取り組みをされている。運営推進会議の参加者から、ボランティア活動の取り組みを提案され「話し相手ボランティア」などとして関わりを持つような方向付けを検討されている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を「ほほえみ」と掲げられている。【ほっとできる空間・ほんとうの自分になれる空間・えがおになれる空間・みんながしあわせになれる空間】とされている。入居者の生活の場としてのホームであり、職員は家族として関わりを持つことを大切にされている。また空間は「地域の中で」という意味合いを意識されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員会議やカンファレンス時に再確認をされており、全職員が共有し日々の支援に活かされている。また、普段意識出来るように目に付きやすい所へ掲示され、入居者と共有されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議で地域住民との交流の機会を増やされている。入居者が参加できるプログラムを町民運動会に取り入れてもらうなど積極的な取り組みをされている。運営推進会議の参加者から、ボランティア活動の取り組みを提案され「話し相手ボランティア」などとして関わりを持つような方向付けを検討されている。	○	既に小学生高学年や中学生の体験学習などを受け入れられている。幼稚園や小学校低学年を対象に、ホームに来てもらえる取り組みのため、連携をとられることも地域との無理のない交流として取組まれることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取組まれ、職員の介護の振り返りなどサービスの質の向上や介護の振り返りを改めて行う機会として取組まれている。外部評価で指摘されたことは改善計画シートを基に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。自己評価や外部評価の報告・今年の行事予定と入居者の生活状況などを議題に挙げられている。入居者の高齢化に伴い外出困難な傾向がある。「どうすれば地域の方にホームへ来てもらえるか！」を参加者と共に意見交換され婦人会のボランティア活動につなげられている。		

グループホーム ほほえみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への市担当者が参加できない時が多いため、市担当者へ後日報告されている。市担当者へ質問した際、即答できない内容については返答待ちという事もあるが、市と途切れない関係を保たれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「ほほえみ新聞」を家族へ送付されている。その中で個人別の健康状態など報告されている。必要時には随時連絡をとり、面会時にも家族意見など聞かれている。金銭管理は月1回面会時に家族へ領収書を渡し確認印をいただいている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族意見は聞かれるが、参加できない家族の要望を汲み取る方法が面会時等の際に掴みにくい。しかし、家族の些細な不満や苦情を真摯に受け止めるホームの姿勢が窺える。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は原則として固定されており、ユニット間の異動も少ない。必要時は、入居者と顔馴染みのデイサービスの職員や、新採用時は職員がペアで行動するなど、入居者へのダメージを最小限にする姿勢が窺える。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は年1回あり、全員参加されている。外部研修や資格取得の支援もされている。外部研修に参加された職員は、月1回のカンファレンス時に報告をされており、介護の質の向上を図られている。	○	内部研修が少ないように見受けられた。平成20年8月に地域住民に向けた「介護教室」を開催され、好評だったため来年への開催希望があるということから、介護教室開催に向けた内部研修の取り組みに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との会議参加で意見交換の機会がある。他のグループホームの職員との交流などを図る機会を作っていく方針を持たれ前向きな姿勢が窺われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>殆どの入居希望者は、入居前から家族や本人にホームに来ていただき雰囲気に馴染むため、短時間でも他の入居者や職員と馴染みの関係を築かれている。馴染む時間が持てない事情の方には、顔馴染みの方に訪問してもらい、馴染まれるまで見守りや声かけなど頻繁にされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の複雑な感情や人生の先輩として話を聞く機会を持てるような工夫として、声かけや入居者が必要とされている事を感じてもらえるような(料理のコツや味見をしてもらう)場面作りに努められている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の暮らしの中で入居者に関わる時間を多く持ち、今までの生活や若い頃の話などを聞き逃さないように努めている。その情報を、ケアプランに反映できるアセスメントとして活かし、生活の支えとなる情報として心がけられている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者の暮らしの延長線として必要な情報や話の内容などを職員間で共有し、本人の意向に沿った介護計画の作成に努められている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケア会議は月1回、モニタリングは3ヶ月に1回全職員が集まり開催されている。状態に変化があるときはすぐケアプランの変更に取り組まれている。変化があるなしに関わらず6ヶ月に1回介護計画の見直しと変更の検討がされている。</p>		

グループホーム ほほえみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療法人の系列としてのホームであり、24時間即時対応できることが本人や家族の安心に繋がっている。入居者や家族の希望に沿ってリハビリ通院、移送支援など柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の殆どが系列医療法人の医師が主治医となっていることが多く、医療連携をとられている。入居者や家族が希望する医療機関への継続受診の支援をされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期を迎えられる入居者に対しては、早期から家族や主治医、看護師を交えて話し合いを行っている。状態に応じた段階的な関わりを持ちながら、本人や家族の思いに配慮した支援の共有を図られている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員が入居者の尊厳を第一に考えた言葉掛けや対応をされている。記録物の取り扱いなど個人情報の保護などは厳守されている。接遇の研修なども受けられている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴時間などを強制せず、入居者のペースを優先されている。		

グループホーム ほほえみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立への助言や食材の下ごしらえ、配膳や後片付けまで入居者の能力に合わせて無理のない手伝いを職員と共にすることで食事を楽しむ支援をされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の体調を確認して、毎日デイサービスと共有の大浴場で午前中入浴されている。ホームの職員が付き添い、介助や見守りをされている。入居者の希望に沿い、時間をずらすなど柔軟な対応をされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力や趣味など活かした取り組みがされている。裁縫や調理など無理のない範囲で、充実感を持ってもらえる支援をされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム前の道路から300m程度離れた場所に神社の鳥居が見える。鳥居の周囲まで天候に応じてスタッフと共にリハビリを兼ねて散歩をしている。食材の買い物時など車でドライブも兼ねて外出されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の2階にホームがあり、正面玄関が1階で階段にはセンサーが設置してある。1階玄関の内部からはロック解除で出られるが、外部からは職員以外はインターホンを通じてロック解除が必要である。ホーム内部はペランダや居室は施錠されていない。夜間は警備会社と連携しエレベーターは電源を切られている。	○	玄関は外部から開けられない仕組みになっており、毎日1時間程度開錠し【自由に入れます】という表示のプレートをドアノブに掛けるなどの工夫で、近所との交流を深める努力を期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自で利用者と共に避難訓練を行い、消防署立会いで避難経路の確認と消火器の取り扱い方を訓練している。運営推進会議の場で、非常災害時の飲料水の確保は、病院敷地内に地下水があり非常時に備えて蓄えてある。食糧についても検討されている。		

グループホーム ほほえみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は細かくチェックされている。法人内の管理栄養士が毎月献立表をチェックされ栄養の偏りを防止されている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒時のダメージを最小限に止める工夫として、フローアー全面に衝撃緩和の材質を使用されている。畳を利用したスペースやソファで、寛いだり洗濯物をたたむなど入居者が居心地良く過ごせる空間作りをされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が安全で居心地良く過ごせる居室に工夫をされている。ご家族の写真や小さな仏壇を置かれており、個性のある居室の工夫をされている。		